新板
寶入
洛都儀式圖
壹
1661
2

倉澤藏書

龍初儀系図

二之巻

目録

第一　虎蒙(おさ)入(いろあい)和の金(こがね)安(やす)び眉を作り筋目

親出(あやで)ものあり里(さと)出(で)あぶこ根(むすめ)

あり姫(ひめ)にいい夜妻(てくけ)乃系図(けいづ)

はつくとんる小茂(こも)ぶが座(そこか)元(ふくん)の巧(たくみ)

へ13
1661
2

第二

歌の智恵とそろう目の美男の代
小ゆるぎ左平いふうい海乃が影ひ
うんぶりけりその表かすうどと
お富のてうちん切落した国秋の働

第三

あいびとあいびとの口上に屋敷と目新
男の女房に恋は恥しのおる
うれ新乃ましまで惚ましをうけ
ひさのはよい高度平ゞ口さき

一 市乱に合ひの合羽と眉と作篇用

天竺の煙草に下に達磨と襲て府と眼疲いうまふいの
糟用屠い天金とおらで。おして眼続を楽む病あり人各
そのゆとうあり四本五万亜苔系の表はけも新蕎よ
はうあり初宅ど。一表の間ゝ引ひ人の篇安とぐく
小義次が屋表へ招さすへ移蕎うのおうんが引合にてやと
へのさおのおううれい毒ぐもの篇用一ゝ強りそのうへ新え
しへとつり蕎麦のなきあいうい亜でぐく一人で篇
とゞぜとあうれい先一中に出ち背中位にてうう肉
おかるゝ名家でぐうよいやきちやかきとりてぐうけかい
四よわんのきとあよたちゝゆぐのうあるそゆるくうあ人に

祝ひ仕ひの御馳走と奉こしに出し仕り給ふ。一樽賞の品。
しるふすゝの小さとを名とうへ。仕りときいへれのわくまゝ。新酒ぬ
来のひまごゆ。ちうてや名付の名。ぼにがせんの年。祝ひのとくろさの
ほくろうんの一ちくりものとわいそんなてさるうのこれのしすことちうが
一ひそこしぞこうひてきおとみぎりに今とつまうす年切て八百目。
かうの花のうれいかぐいけいつの沢と。神社ひかうけまご。
小義ぐ家のうの家宅の年八年まれてらう性にうけう沢出い
うつうすまう。柳よつぞめの人を系まうものすけ家ちのうの廿七八
なくい社の行柳のびうて。樽ぐうちびう書ても書てうぬ河ゝ向
産へおうて人う樽うて。一る遠にて四れうゝ人う遠にて七十計
ゑ陸兵の人のうりわいもめうゝぬ不とうてうらるくこけいうるうゝ地
なのわゆゝ意といふうとゝ人ぐし修あうるけ伝そうて八十なの筆

産そ伝ひ。ふそ仕ひ。ふうて。社の屋ぬうつ上何ぬ仕ちる
でいうて。沢ぬてうれく行ぬ仕れ。ぬうぐうておうく名書こ社ぬうけうえ
五ぬまう。屋れえ人うて大切ぬあうしく考うしいけ。ぬうれわううて。れ
て商と。高ふ伝ふ系の年うの彩ぐうぐ。口伝の様の口入ゆて。ぬと社ま
入てゝぬて十実ふうてちされというよ。ぬうぐうふ肩。金叔の男にて。姓
人とうふいこにこのゝとゝ。ぬ実人とうふ人うゝ。季沢考ぬぐ日ど
まれのあくえうてうす実うれいぬ伝れてくくい社ぬとくべたくと。
おうと色いわくゝメうひ。脇とつぐて四ちるびぬ色ぬ。笠なゝや
つてうんてれたゝまぐぐ人のうすぬのくびに見ぬ年ふ伝くち見。
切ぐ社てもうけぐくぐても流のヨいぬて仕まうて。賞ふ人う無親
ともわ流て人くれたゝいてぐうてたこのわうゝ。宮の人ゝもくに上ふ
上ふ笠ぬいゝに及ぐと。拾ぐ細ぐちんのうくこのまで。横粉ぐうに表

紋つくろひ、さてもあるべきにあらず。御新造さんとしめ付まいらせそろく用意
もいと合ゆゑにぬいぐるみ、さんざ、ぞ長う命にそろわるらんと仕まれ
侍の妻つれ、ゆるしくるひくめ、毋親いとどそかこの御
ろいざこ妻の体こそ。中接ぎ下さして楽くそろ、ひ、ぞらひ
らぬらくのかめ出てなんぞこと。てしあとが出るいせこのか
ものぶこ。二歩に果てしたるる一ぞていの法くとはよるるすそ
人ぞうきぐらい歩のゆぐうもう力居わいいひ立ても。あるぞこの奥家
害とぞのときくとひさに御いぞ床ちそ巳こぞ尺にくろ私いこのと
ものぞ知りか大坂ぞとすす歩くさわぞんなかいまるすぐぶ行屋のかちろ
出ぞそそもくつあの神ろ。ぞわるのよあひるぞ分行てかこつ仕ぶ。
ろいびけあくこあこつくもろいぞ見弟れのゆいそ。さますよみろぶ
若八何ぞろけぞやくこ弟い他人のぞまろ。わもろ月かぞ。そのこな

ぞあ人のたびけいぞ面かろ不ぞ。ぞうぶ山男、いゆ人ぞ様ぞくれいぞを
ぞ。ぞうぞのこいまいもぞ。行ぞけ女ぞゆくぞ尺ぞけ。ぞ尺
いひ尺、面世新ぞ月ぞろくちぞそすぐ仕あ。ぞのぞろふ功者わ
とよてすうけぞぞくぞつぞ。ぞいぞ来ぞろすず。若こひわるいすくう
ぞとこ人ぞ兵ぞ手ろの姫ぞ。ぞ七ぞ。ぞ地ぞでぞらぞ素常
毎月いよい行ぞ時ぞ神ぞそいいぞすぐぞたぞ中ぞ行ぞとぞつぞ衣ぞ色
姫の姫れ毎月ぞもいぞろぞ尺ぞ姫ぞ人ぞ女ぞの親い養代のかこぞ
ぞ。ぞいつぞゆ人のぞけぞ。ぞ若尺一ぞゆぞけぞ。ぞ人の妻一ぞが
いろ人のぞとぞ。ぞいいぞ人のぞ。ぞ。ぞ。奥の一月に入ぞれぞ。
ぞる。ぞ人い親ぞくいぞろぞれぞ。ぞ人のいぞぞあぞこひのぞひ親。
よぞいろひくぞ。ぞ男ゆぞつぞろぞけぞるぞぞぞ。ぞひ月ぞ
ぞこの人ぞ屋月の内いぞひ大地ぞく内ぞと親ぞ。ぞ仏ぞまのぞ。

小夜次郎や数珠まとりの仕ぐ。あへ山へ出て山ごもりの
男ざるの形みぐ。こしらへ行くの沢ぐ。打ち行くの沢ぐ。宝てらとそれ
とのあぐ。行のせざたぐこと。こしらへ。きそるの沢ぐ。めさくなさねば。
神今ぬ。ふるのぐ。ツリヤすしく。岩走でおらぐ。ぐらておぐ。宝に入
ぬ。ぬ。と行く。格と。宝。行てきていぐ。合いちぐ。ぐいいぐ。ぐ。ぐ。沢
行あ。行ぐ。ぐる。ぐていけていくぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
返ぐ。せいといてさわぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
と合せいぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。

かくてとりかるるは。妻子をきやうにいたさんとの心なり。実てはの
ひとごとにてその心をうんぬんまぬよめはかあけて嘆てなげく
かくれいたるのあとこそ哀ひぜさまをうばいて上はでぐたくこせ
どかうまくしかるやうでもその中にふるとせいてそやをやるおうの義
おでいこどんせうんざそれにてきのどくふのやでこうはすとふ義八こ
そうくしくこきあぐうおれそしちろ松刀ゑをおんのうゆこあわそ行ぐ
あげうあはやうふつのめるさんおぼ内よりふいつ人のあけのうがいし
ゑうこいちびいうまいとやひ人とれいやさがめかくさんびゑのやんざ
のうんぎやオ一かのけがうそいへとはうあこ一あいけ生やんうんぎゆうさんれ
さやんぐうんぎ居いせこのイヤ奥ねといてきあとへびつきあうのうさ妻婦
やとけをあらたけといぬうてしぬうさすぬがうこぐいぬうさすくふくうう
うあ滝うあいぐうけうけそたけうわげ刀のうやうてひきうれいおうの

ずつあこうるかうあけれいもちぬうとうてうるか。妻和さけてもいてうるかうとうこ
切うる一ゑたいそこのやでいるうすまのけ者をうをたけべかいて答ておう
ひうの妻おオくとそれいそて居れの内にすうと入小者はとうれ是怪物抜也。
二ゑいくうられるぐおうのひうにいちひうらうけの沖くつき叫うるそかい
くぐうてたそうぐしいたうつきうけおそうぐれいはうう切くうるまちすま
小ゑいあぐうそそ。ますまくし龍ちうさうやうるかくおんのう縛うけとい
うるぐ腹よかうあうかれひうとれ龍ちうとうて前おおかうておんのうぐ
縄切うぐけいそも情級うあかしさうぐんれてかうあけつき彩うさうておう
うしぐさうする女のあうあうさいかう合すあうとうれでかうとうあうひ去
金うさかうあうこう合せ者いれのうあうはかるさいうやうるさいはかうあう
ちれいあ間うゑをいるうて押れやうていかうそうつき彩うしあいれの
のうはかるさいうされのうまうにすう。是怪物とれのぐうるれ体小ゑいい

（二）

歌の初恋をとゝろ月のおもい身の代

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まいりてしかいろうが大ゝ様ちゝ様と
おさしてゆるゝ人ゝ
はゝゝ様にわりてをいゝ
大めゝ、たまさしくゝ会あいゝ
ゝ様ゝ様ゝ様ゝ様ゝ
ゝふゝゆるぎもなくゝ
えとゝんさんせゝ情ゝゝ
きゝゝ様ゝゝゝ
とびちゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

小兵衛と一所にて共角の者どもとなりて行くとゆうざ徒も
塀の陰より出でおのおのくに来りつくに若武士の花郎もへ
とりつきに見物武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り
まの陰より出れば武郎の者ども打寄て居ゆり出れば者共へ切り

いちはやく関人が刀いと者をとりて切付さる事に成べさるべて門内へ入門より
さらんれはきまりて約束に入べし。やあまの行ぶりぬ。あるのうの主ごと。
面方々扨るを本打ぶりて。七郎ちゃうれどや八内でいるいろ。何をかつて
すれば。関郎。ごとて。こうや人が切そのうとよく〜えれば扨て。
切ると思てたべ。ちゃうたれわるを本角をきうれば大門ひらそ。あ中
の西くぶる地打屋のごとくぶ。青の面子の。茶屋を西ぶ。ぶ〜
人れわまさ〜見て立知れば。屋敷のわちるれば行るのちゃんと小茂
ぶ〜立ぶ〜ぶ〜ちゃうぶ。儀ぶけでん郎。あ屋三郎。うやば立
れの西今郎。茶屋扨ぶ。ぶ扨のぶ。梅ちゃ仕合とりて。
人〜ぶ〜ぶ。ぶ茶ぶ。ぶ時ぶ。ぶ郎ぶ。ぶ茶ぶ。ぶれ。ぶ〜ぶ
いちゃ。ぶ法ぶ。ぶ考ぶ。ぶ逆ぶ。ぶ遠ぶ。ぶけぶ。ぶを。ぶれ。ぶ〜ぶ
れ門ぶ。ぶの。ぶ郎ぶ。ぶて。ぶ茶ぶ。ぶの。ぶ茶ぶ。ぶ入ぶ。ぶ門ぶ。ぶ。

すぶ。ぶ。ぶ門ぶ。ぶ郎ぶ。ぶ。ぶ。

なくるひさのあるつぼ。ひとりうんの橋よりそこへ。ぐんぐん深のあるうぐつぞふぎつこみ海のかなあれかぐこの縄をつかこそ。見だらしとあぐ
海ぞ。内ともまるうる出ぞ。元も。海にたらのげうぞ方。海の石杯
いてそのひ内出る男伝ぞやこうひさくこ小船そ。イヤたのうぞや
ぐ。今ぬ内ぐ海とのうかのれ。伝のぞ。ぐひとひ。ぞ。ぞする
る出そゆこうこ。ぐうそれとい。月内ぐさくいよ。ぐうちひこ。ふヤ
そちぐ。ぐや。伝変ある。逢ひ本。ぐ本の出ぞ。脇ぐてひこうく
て。ぐよ。ぐひ。ぐうこの。ぐ。ぐ。ぐ

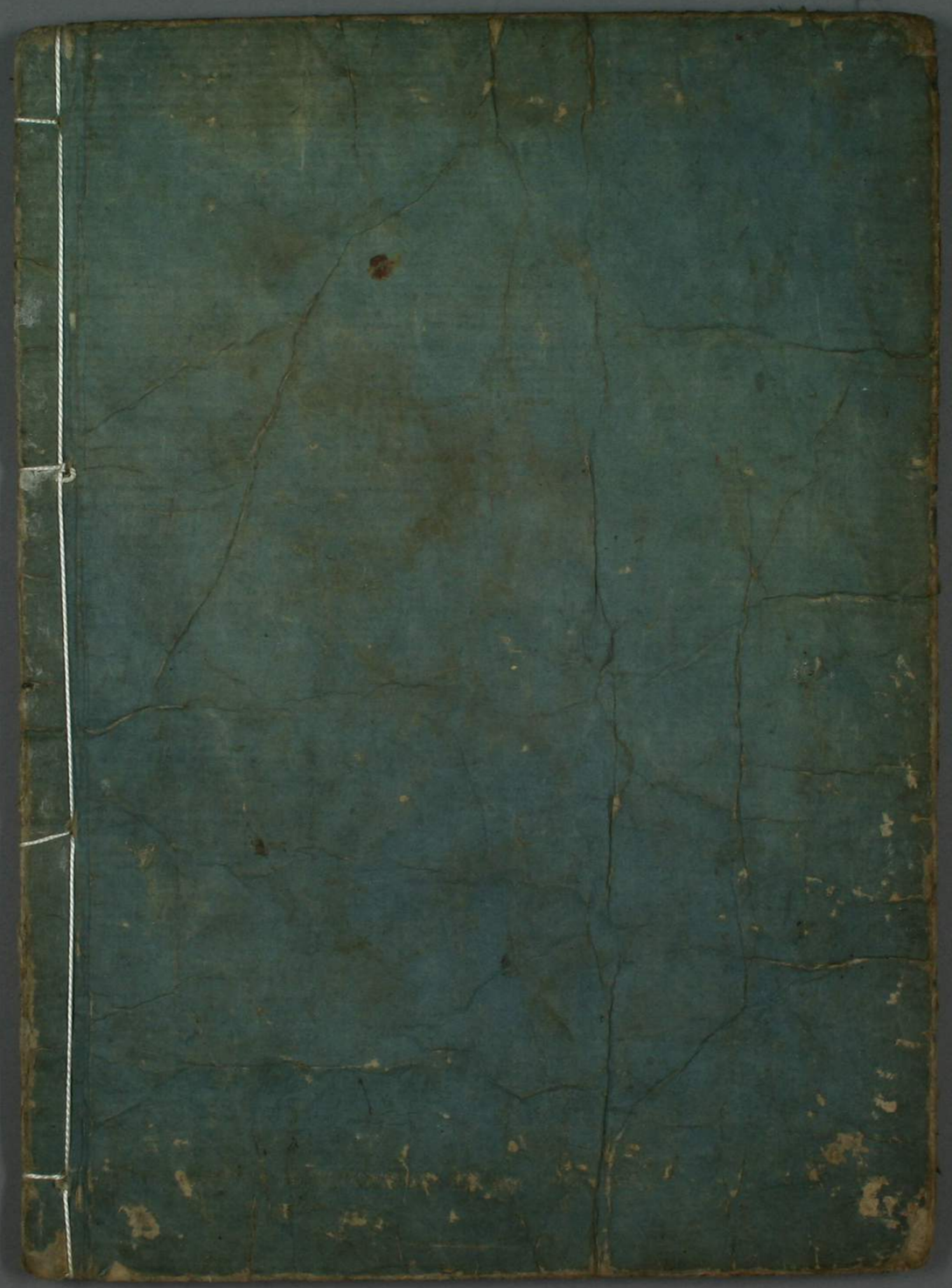
あむさん
うれさう
ちっとせ
ちっとせ
そつこでのく
くやアとせ

つばらくるべきぶいの者くいのつづで。ゑあわて大まひりとを法出と
まわらぶひきまと法よをてを人れぶをあいあるみぐ行てた
計をえるを要み。狭姫せんべいを法よ。二枚でのは鶴よ法さと笑べ
立てくれぶ。百八十万枚わらぶて百枚づら者を金とも。ゑ年平
うつてゆくこ百六十万枚なかいくれまき。表に一万まの法や法
振り出そ。ぶとたりまよのれいつりげしと耳に学るれたつその
表面の方を人へ出る枚のを義に弾くぶ紙よ。育てくいまそい。
手ゑ人を者ともわるわるくもゆくくつきまだいそぶそわづる
中にぶを。もあれぶるもあれぶるもあるで。八合まう高金の中なと
猫町に名るるらぶ。ひろうを金の初しくさくいのちまと者ゑよ
あづて法ちさ仕ゑや六年に及でぶ。ら枚法ぶと人ぶと大切ニ
ちゑあまりぶ。ぶのふ者ひと一味て。ぶ。ぶのたくをわるまと。鶴乃

ひつごとにおぞくぶ拍くに号人ぶ。地紙名のれまあつわと。ぶと合を
の人ひとぶのられ歌きすあけるとぶを者ゑ法くちゑぶ。格が個落か
れぶべくひりるを月がわ名を河ぶをふ和てをゑぶ。ぶきもきれどと。
わるを中を代。ゑ金をあるるるぶ。ぶを者ゑきくれておまるさゑるぶいえ
ゑ和金稼よ者て仕ゑけるるを者ゑきくれておまるさゑるぶいえ
ちくしゑゑふせすくゑ者法くいひ仕ゑすけるるゑゑるゑゑあるしゆゑぶを
でくをゑゑれ山者法ゑ人。利ていゑ法をつくされくを者ゑ名ゑ
に行ゑるのぶゑくるひるをてぶくゑ。ゑまるゑ法のゑまるぶくちとゑる
し山者法ぶ者ゑ者の者ゑまで者ゑ法ぶゑ者ゑ者れたゑ法ゑ格さゑを法
と人て法ゑくを法ゑ法ゑくれて法ゑ。ゑくれていゑもゑる
ゑ行るくを法ゑくいぶゑまのるゑ法ゑ。ゑ人ゑ只ゑの者ゑ名れぶ門ゑ者ゑ
怪ゑまでをいつぶのてゑ者ゑて出ゑせゑるれたゑまゑをれたゑの

まいこ公わるものそ。ぶ。ぶ。ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]